


作品名	写真	制作者	寄贈者	設置(建立)年	石碑、作品コンセプト	備考
林子平 像		東京芸術大学名誉教授 菊池 一雄	河北新報社 社長 一力 一夫	昭和 52 年 6 月 21 日 (1977. 6. 21)	石碑あり 河北新報社創刊 80 周年を記念してこの像を寄贈	平成の再整備時に伴い移設している。
のぞみ		阿部 正基	仙台青年会議所	昭和 36 年 10 月 28 日 (1961. 10. 28)	第八回全国会員大会開催記念 仙台青年会議所創立十周年記念にて寄贈	平成の再整備時に伴い移設している。 本作者の作品は公園以外にも学校敷地内の銅像など多く設置してある
志賀潔 像		阿部 正基	志賀潔先生遺徳顕彰会	昭和 44 年 10 月 17 日 (1969. 10. 17)	石碑あり 仙台市名誉市民	本作者の作品は公園以外にも学校敷地内の銅像など多く設置してある
平和記念像		彫刻者：翁 朝盛 鋳造：岡本 謙三	宮城県内学校児童生徒 職員 宮城県民有志	昭和 34 年 8 月 7 日 (1959. 8. 7)	市内の学校の児童生徒の募金により制作されたとされている。	市内でも 2 番目に古い時期 (1 番は青葉山公園の昭忠碑) に設置された野外彫刻
季の杜に		一色 邦彦	仙台市彫刻のあるまちづくり事業	平成元年 4 月 14 日 (1989. 4. 14)	コンセプト 捲想(けんそう)のかいなの中で 男は為止(し)さりし時の流れを 女は予感の中で…… 現在-うずくまった想いの中に 過去-男は去っていった時の流れを感じつつ 未来-女はこれからおこる諸々のことを予感しつつ	現地オーダーメイド方式※にて設置された作品。  ※現地オーダーメイド方式 ①設置場所の決定 ②その場所に合う作風の作家の選定 ③作家による現地視察 ④その場所に合った作品の制作
谷風梶之助 像		制作者：翁 観二 石工事施工：高橋 嘉兵衛	河北新報社社長兼谷風会 会長 一力 一夫 一力次郎嗣子	昭和 46 年 7 月 26 日 (1971. 7. 26)	石碑あり	仙台市は、河北新報社の一力会長が横綱審議会の委員を務めていたこともあり、相撲とは縁の深い土地柄である。
時の広場 -Piazza del Tempo-		吾妻 兼治郎	仙台市彫刻のあるまちづくり事業	平成 9 年 1 月 23 日 (1997. 1. 23)	コンセプト 勾当台公園の円形花壇の空間を活発にするため、時計の指針の動きから発想して、針のような先端鋭角の三角形態とし、先端を接地させた。作品の方角は、制作地のイタリアのミラノを向くようにした。くり抜かれた三角形態の下面部を誰もが潜り抜けてみたいと思うだろう。市民が彫刻の中に溶け込み、空間が生きてきて、円形花壇に回転運動が生ずる。時間が加わり、生きることにつながってくる。針が動きだす夢のある広場、憩いの場となってほしい。時とは生きることだ	現地オーダーメイド方式※にて設置された作品。  ※現地オーダーメイド方式 ①設置場所の決定 ②その場所に合う作風の作家の選定 ③作家による現地視察 ④その場所に合った作品の制作

作品名	写真	制作者	寄贈者	設置(建立)年	石碑、作品コンセプト	備考
織姫		雨宮 敬子	仙台ロータリークラブ	昭和 62 年 5 月 吉日 (1987.5)	石碑あり (作者コメント) 織姫は能動的横糸で秩序を求め 受動的経糸でバランスを保ちながら 絶えざる成長を織って行く 近代的で健康的な仙台の 平和で豊かな発展を織りなす姿を表出しました 手に持っているのは横糸を巻きつける はたおりの杼 冠は仙台市の花 萩をあしらったものです	作者は、彫刻のある街づくり事業の第9番目の作家に選ばれ、西公園の旧図書館にも作品が設置してある。平成12年3月に専門的な洗浄のうえ保護材を塗り保存処置が施されている。

**織姫碑文**

昭和十二年(一九三七年)敬愛する幾多の先輩が奉仕の理念を求めて 仙台市にロータリークラブを結成してから現在まで既に五十年を経ました

百六十余の現会員は良き市民としての活動を通して 強度仙台が日本で最も美しく住み良い街に発展して行くことを心に念じながら 半世紀に亘るクラブの歩みを ふるさとを祭り七夕の象徴である織姫に託してこの像を市民に贈るものです

制作者 雨宮敬子のこの作品に寄せる言葉を記して碑文とします

織姫は能動的横糸で秩序を求め 受動的経糸でバランスを保ちながら 絶えざる成長を織って行く 近代的で健康的な都市仙台の 平和で豊かな発展を織りなす姿を表出しました 手に持っているのは横糸を巻きつける はたおりの杼 冠は仙台市の花 萩をあしらったものです

昭和六十二年五月吉日  
仙台ロータリークラブ

**谷風像碑文**

谷風梶之助 等身像

身長 六尺二十五分(一八九センチメートル)

体重 四十七貫(百七十三キログラム)

出生 寛延三年(一七五〇年)八月八日宮城郡霞ノ目村(現仙台市霞ノ目)

初土俵 明和六年(一七六九年)四月場所達ヶ関森右エ門と名乗り西方大関として付け出さる(伊勢ノ海部屋)満十九歳

横綱昇進 寛政九年(一七八九年)十一月場所 二十九歳三か月

総成績 四十七場所二百五十八勝十四負け三十六分け、預り(勝率九割四分九厘)

優勝 二十一回(全勝優勝十一回)連則優勝四回

連勝 六十二勝

横綱成績 十場所四十九勝二負三十六分け、預り(勝率九割六分)

引退 寛政六年(一七九四年)十一月場所を最後に引退

没年 寛政七年(一七九五年)一月九日横綱在位中 生家で流行性感冒で没す四十六歳

建立 昭和四十六年七月二十六日

製作者 翁 観二

河北新報社 社長

寄贈者 谷風会会長 一力一夫

一力次郎嗣子

(※石碑裏面 石工施工 高橋嘉兵衛)

**林子平像碑文**

細力に思へば江戸の日本橋より唐、阿蘭陀、迄境なしの水路也

林子平(はやし、しへい)

江戸時代中期の経世学者、兵学者 元文三年(一七三八年)六月二十一日江戸に生まれる兄が仙台藩に仕えたので、二十歳の時一家は仙台に移り住んだ 経済や国防の問題に深い関心を抱き、領内はもちろん、江戸、長崎、さらに蝦夷地(北海道)までも遍歴、学問を重ねた 特に長崎で西洋の事情と知識を吸収、その中でヨーロッパ列強の侵略やロシアの南下政策を知って、四面海に囲まれた日本を守るにはどうすれば良いかを追求した 天明六年(一七八六年)出版した「三國通覧図説」では、朝鮮、琉球、蝦夷及び小笠原諸島の地図と地理、民俗を記載し、海外に関する知識の普及に努めた ついで翌天明七年から有名な「海国兵談」を著し、海国たる日本の全国的な沿岸警備の必要性を強調した 「海国兵談」の出版は資金難に苦しみながら寛政三年ようやく全部出版されたが、同年幕府は無断で国防を論じた罪で板木を没収、蟄居を命じた 落胆した林子平は「親もなし妻なし子なし板木なし金もなければ死にたくもなし」と詠んで六無齋と号し、寛政五年(一七九三年)六月二十一日仙台で死去した 五十六歳

河北新報刊八十周年を記念してこの像を建立する

昭和五十二年六月二十一日

寄贈者 河北新報社 社長 一力一夫

製作者 東京藝術大学名誉教授 菊池一雄

**志賀潔先生顕彰碑**

先生は1870年12月18日 仙台市に生まれた 仙台市片平丁小学校を経て東京独乙語学校に進み第一高等学校 次いで1896年東京帝国大学医科大学を卒業 直ちに伝染病研究所に入り北里柴三郎博士に師事し1897年志賀赤痢菌を発見す 時に歳二十七 1901年ドイツへ留学パウル・エールリヒ博士に師事し睡眠病トリパノゾーマの治療剤トリパンロートを発見して化学療法の魅力をなす 1905年帰国翌年及び1909年と再度にわたりて極東熱帯病学会に出席し更に1912年ローマに於ける万国結核病学会に日本代表として列席した 1920年慶応義塾大学医学部教授となり同年秋請われて朝鮮総督府医院院長兼京城医学専門学校長となる 更に1929年京城帝国大学総長に任ぜられた 先生の功績に対し1944年国家は文化勲章を授与し 1949年仙台市は郷党の誇として仙台市名誉市民の称号を贈った 1957年1月25日八十八歳の高齢を以ってその光輝ある生涯を閉じた 死に臨み正三位に叙し勲一等瑞宝章を授与された 茲に先生の生誕百年を記念して胸像を建立し永くその偉大なる学勲と不朽の功績を後世に伝える

1969年10月17日

志賀潔先生遺徳顕彰会